

S S T K 社会福祉法人 埼玉のぞみの園
法人だより No. 1

編集 埼玉のぞみの園法人本部 〒369-1105 深谷市本田 3343 編集責任者 理事長 山崎 勝
 発行 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒332-0011 川口市元郷 1-10-13

定価1部
50円

法人だより 発刊に当たって

社会福祉法人 埼玉のぞみの園

理事長 山崎 勝

昭和52年1月法人が設立され、間もなく35年目を迎えることになりました。その間の先人たちの喜びや楽しみ若しくは苦労などといった思い出が詰まっています。

春日園という授産施設の経営からスタートした法人事業は、今や4施設と4ホーム、そして1生活サポート事業所の経営を行うまでになりました。(注1)

しかし、組織が拡大したことによる協力者等への事業の紹介や職員間の業務の相互理解など、埼玉のぞみの園(法人)として伝えて行くべきことや協力をいただくかなければならないことへの配慮が、とても難しかったように思います。

今年から法人本部を設置いたしました。法人事務局と傘下施

設の会計事務を集約しています。各事業所のニュースはそれぞれのある程度周知されており内容についてはちよつと分かりづらいかもしれませんが、法人の課題や行っている事業を便りとして、法人にかかわる後援会・各事業所保護者会を中心に協力者や関係各位に広報することにより、法人と各事業所の状況や関係をよりオープンにし、皆様方の更なる埼玉のぞみの園の理解促進を願います。

拙い便りではありますが現在法人事業をご利用の方は勿論、将来の利用をご検討されている方もまた、福祉事業にご関心の

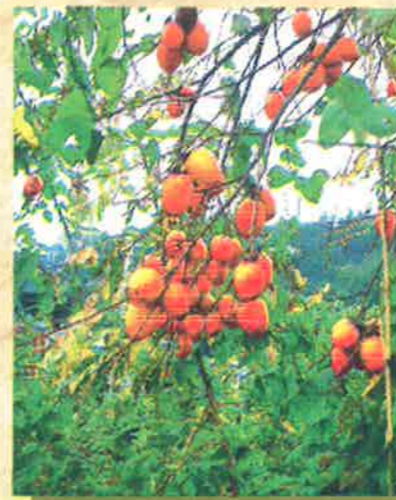
【注1】法人事業 ()内は定員・開設年月

- 4つの施設
 - ・春日園 (入所44、昭52.4)
 - ・第2春日園 (通所52、平4.4)
 - ・深谷市立たんぼ作業所 (通所50、昭58.4)
 - ・妻沼つくし作業所 (通所30、平20.4)
- 4つのホーム
 - ・KASUGA (入居6、平8.4)
 - ・とびた (入居7、平15.4)
 - ・のぞみの園ホーム1号館 (入居9、平19.1)
 - ・のぞみの園ホーム2号館 (入居9、平19.1)
- 1つの生活サポート事業所
 - ・のぞみ 深谷営業所 (平11.11)

ある方も是非ご一読いただき、なお一層の本法人へのご理解とご支援を切に願うものであります。



春日園広場にある法人設立(春日園開設)十周年記念に建てられた「のぞみ」の石碑。(当時の畑和埼玉県知事の書による)



春日園駐車場の柿。今年もたくさん実り、秋も深まりました。美味しそう！でも、渋柿なのが残念ですが...

い生活支援サービスを提供すべく、平成11年11月、借家を改修して生活支援サービス「のぞみ深谷営業所」を開設しました。

平成17年には熊谷市にも営業所を開設しましたが、平成21年5月、深谷営業所の移転に合わせて統合、新たな「深谷営業所」として現在に至っています。

実施事業は、国の事業である障害福祉サービス(居宅介護、身体介護、家事援助、重度訪問介護、行動援護、児童デイサービス)、県の事業である生活サポート(いわゆるレスパイト事業、一時預かり、送迎、介護派遣、外出援助、宿泊)、市町村の事業である地域生活支援(移動支援、相談支援)で、ケアホームとも

連動して、利用者の充実した地域生活の実現に役立っています。

● 今回は春日園の支援の中から発展した第2春日園、ケアホーム、のぞみの各事業所について紹介しました。法人の歩みの一端をご理解いただけたでしょうか。次回は、たんぼぼ作業所、つくし作業所について紹介いたします。

【本部スタッフ紹介】

♂ 小口 一弘 (本部長)
 本部の業務を統括する本部長。長野県出身。趣味は読書に映画観賞。会計とIT知識、責任感減法強い。頼りになる2児の父。

♀ 松本 キク (春日園・たんぼぼ会計担当) 明るく元気活潑。反面、豊富な会計知識と経験を活かした厳しい仕事振りは誰もが舌を巻く。辛い所に手が届く2児の母。

♂ 橋本 昌教 (のぞみ・つくし会計担当) 今年4月にめでたく結婚。どっしり構えた性格。野球大好き。現在、慣れない会計を猛勉強! 次代を担う若手の希望の星。

♀ 原永 容子 (ケアホーム会計・法人庶務担当) 福島県出身の焼酎派。手芸とお肉大好き、料理も得意。物静かで、スレンダーな容姿に漲るパワーの2児の母。

♂ 米澤 裕 (法人事務担当) 永年法人に勤務。経験、年齢、体重は豊富。本部の平均値を一人で押上げる。会計のプロ集団にあって一人はみ出る。

♀ 小林 都 (第2春日園会計担当) この夏就職。行政の窓口経験を活かした、おっとり穏やか、地道な仕事振り。手芸が得意な明るい2児の母。

【編集後記】

法人設立35年。事業所も増え、利用者、関係者、職員も増加。規模が拡大すれば互いの顔も見え難く、コミュニケーションも希薄となりがち。このたよりが少しでも読者様と法人を結び、相互理解に役立つのであれば幸い。暖冬だが、季節は確実に移ろい木の葉は色付き北国から雪のたより。冬は目前。頑張らなくちゃ。(米)

【法人本部連絡先】 〒369-1105 深谷市本田 3343 番地 (電話) 048-594-6511 番 (FAX) 048-594-6512 番

【後援会からお知らせ】

平成23年9月末日現在、後援会会員は、のべ182人、会費は679,000円となっています。多くの皆様のご協力をいただき、誠に有難うございます。

【本部からお知らせ】

新年には恒例の法人職員を対象とした新春講演会を開催します。今年は「ヒヤリハット事例を普段の業務に活かす」がテーマです。

【ご意見お寄せ下さい】

法人や本部、各事業所などに対するご意見や、法人だよりへの投稿記事、手記等をお寄せ下さい。適切に掲載させていただきます。

法人本部の建物の前には、今年丹精したパンジー、ペチュニアなど、秋の花が咲きました。美しい、きれいだ...!



法人本部 設立の経緯

本部長 小口一弘

平成二十二年九月に法人本部準備室を立ち上げ、平成二十三年からのスタートに合わせて準備作業を始めました。準備室委員として理事長を始め五人が選ばれ、七回ほどの会議を持ち、課題検討を行いました。

具体的なポイントとして、次の三点がありました。

- ① 法人事務の集約化
- ② 経理事務の集約化
- ③ 施設業務と法人業務の分離化

当時、法人事務は春日園管理課（事務センター）が代行しており、また経理事務は各施設毎に処理されてきました。そのため、各施設の事務員の業務量不均衡が課題となっていました。それらの課題を改善すべく、法人本部設置の方向となりました。平成二十三年一月より各施設からの出向という形でメンバーが集まり、旧春日園管理課（事

務センター）で業務を開始しました。施設毎に異なっていた支援費請求ソフトを統一し、単体で処理していた会計ソフトをネットワーク対応ソフトに切り替えました。また、法人事務局として、法人三十五周年記念ゴルフコンペ・虐待防止研修会・法人職員交流会等を開催しました。会計事務局は半期決算が終了し、新しい会計ソフトにだいぶ慣れてきました。法人本部発足に合わせて税理士のサムライズと業務委託契約を交わし、月次決算指導や監査の立会等を依頼しています。



半年経過し、会計事務局の業務は落ち着きを取り戻しました。これからは、法人事務局としての課題に取り組んでいきたいと考えております。



【本部入口脇にある表札】
本部は旧春日園事務センターの建物に置かれている。

【法人本部職員】
・職員数は計6名（男3・女3）
常勤3、非常勤3を配置。
・各事業所の庶務担当は5名。
通常は担当する事業所で業務を行なう。

【法人本部組織図】



各事業所 開設の経緯と現状

法人事務局 米澤 裕

● 春日園の開設

熊谷養護学校卒業生の進路先として、保護者を中心となって施設設置運動を展開し、入所30、通所10の定員で昭和52年4月開設。民立民営としては県下初の授産施設として、当時新聞やテレビにも取り上げられました。その後定員増を経て、一時は入所60名の「重度身体障害者授産施設」でしたが、平成19年1月、「施設から地域へ」の流れの中で、生活ホーム（現在のケアホーム）設置に合せ減員。現在は短期入所を含め定員44名の「障害者支援施設」となっています。

春日園は障害のある人の親が作った施設であり、開設当時は未経験の職員が試行錯誤しながら業務を続けました。法人内で最も歴史ある施設として常に法人の中核でした。春日園で永年積み上げられた業務手法や様々

● 第2春日園の独立

通所を希望する利用者の増加と春日園通所部門の充実を図るため、平成4年、春日園の通所定員を20名に増員し「身体障害者通所授産施設」として独立。春日園との一体的運営を図りつつ、授産部門を次々に拡大し数段のレベルアップと活性化を実現させました。

開設当時、多くは手内職的、下請け的作業でしたが、大型機械の導入による一般企業との共同生産の実現、パン製造、うどん製造等の自主生産事業の展開などを進め、支給工賃額を着実にアップさせ、近年、利用者の一般企業への就労支援、福祉の店「はる工房」の開設、トマトのハウス栽培の開始等活発な活

● ケアホームの開設

現在定員は就労継続支援B型40、就労移行支援12の計52名。質量共に充実し法人授産事業の中心的事業所となっています。

当事春日園入所者の中には、独立生活を希望する方も多く、その方々の地域生活を支援するため、平成8年、定員6名の生活ホーム「KASUGA」（カスガ）を設立しました。その後平成15年に「とびた」（定員7）、平成19年には「のぞみの園ホーム1号館、同2号館」（各定員9）を相次いで開設、定員合計は31名となりました。

生活ホームは生活能力の高い



はる工房付近の畑地を借用し、第2春日園でトマトのハウス栽培を開始（平成23年9月）

「のぞみ」では、法人の各事業所が開設されるまでの経緯と現状を簡単に振り返ることにより、法人の現状を「紹介したい」と思います。

● のぞみ深谷営業所の開設

主に春日園やケアホームの入居者を対象に、より利便性の高

